

優秀賞

一般建築物の部

建築主：学校法人 加藤学園

設計：水上哲也建築設計事務所 一級建築士事務所

施工：株式会社 篠原工務店

所在地：野田市蕃昌338-2

～風景の中で自然に囲まれて育つ子どもたち～

のだのこども園



全体外観

「子どもたちが自然と戯れ、生き生きと風景に溶け込んでいる」

園に入った時の第一印象だ。

敷地は野田市郊外の緑に囲まれた住宅街の中にある。隣接する幼稚園を40年以上運営してきた建築主は地域ぐるみの子育てができる「地域コミュニティのハブ」となるようなこども園を構想したという。

園舎は既存の幼稚園や園庭の遊具、樹木などの風景と連続する配置となっている。幼稚園の外廊下形式を踏襲し、全ての保育室が園庭に面するよう細長い敷地に沿ったボリュームとしている。長い園舎は「保育棟」と地域へ開く「交流棟」に分かれ中央に既存樹木を取り込んだ「テラス」で繋がれる。「テラス」は性格の違う2つの棟を明確に分ける役割と園舎から園庭につながる外廊下の軒下と共に、子どもたちが季節や天候に左右されず、自由に内外を駆け回ることができる空間となっている。

構造は燃え代設計による準

耐火構造の木架構に、園庭側のみ鉄鋼柱桁とする混構造の建物とすることで、園庭に大きく開く計画としている。集成材の木梁は梁下の桁材をなくす工夫をして、深い庇を持つ外廊下でも室内へ採光の確保し、室内から外廊下まで続く木梁は保育室から外廊下～園庭との連続性を高めている。

竣工から約4年の歳月が流れ、園庭の木々も子どもたちと共に成長し、テラスや外廊下の木床、集成材の梁も自然に溶け込み馴染んできている。建築主や保護者たちも日常の清掃やメンテナンスに対して積極的だという。今後の園と子どもたちの成長を地域ぐるみで見守り、建物の経年劣化に伴う変化にも丁寧に対応していけることと思う。（藤本 香）



テラス1階



保育棟1階

(撮影全て/鈴木 研一)